

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

須賀川市長 大寺 正晃

市町村名 (市町村コード)	須賀川市 (07207)
地域名 (地域内農業集落名)	西川地区 (西川)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和8年6月30日 (第5回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

- ・水稻と果樹などの複合経営を行っている個人経営者が中心である。
- ・担い手の中には、6次化に取り組んでいる人もいる。
- ・地区内の水田のうち、1/3程度で基盤整備が行われたが、それ以外は未整備のため、条件が良くない。
- ・条件の悪い圃場は、借り手を探してもいない状況が続いている。
- ・高齢化・後継者不足により、耕作放棄地の増加が懸念される。
- ・規模拡大をするにしても、水田の枚数が多すぎて規模拡大できない。

(2) 地域における農業の将来の在り方

- ・水稻と果樹を主要作物とし、新品種の導入や改植、有機農業への切り替えを検討し、栽培方法を確立する。
- ・担い手や定年後の就農者の確保に努め、離農者の農地の受け入れ体制を確立する。
- ・農地の出し手や非農家の人にも水管理や草刈りなどに協力してもらい、地域が一体となって農地を守っていく体制を整える。
- ・農業をやってみたいという人がいれば、地区内に紹介できる仕組みを作る。
- ・基盤整備を進め、さらに兼業農家を増やすことで、担い手を確保する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	変更前133.68ha	133.24 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	変更前133.68ha	133.24 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】		ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

- ・農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、その区域と住宅地又は林地との間にある農地は保全・管理を行う区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積・集約化の方針
・担い手に集積・集約化し、分散錯圖を解消する。 ・新規参入を促進して、新規参入者に集積・集約化する。 ・国の事業を活用し、基盤整備を進め、団地数を減少させ、団地面積を拡大する。
(2)農地中間管理機構の活用方針
・地区内の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける。
(3)基盤整備事業への取組方針
・未整備の圃場は、基盤整備を進めていく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
・担い手希望者の意向を踏まえながら、関係育成機関と連携し、相談から定着まで切れ目なく取り組む。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
・地域の担い手への委託や農業支援サービス事業者等を利用することで合理化を図り、耕作放棄地の発生防止に努める。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☒ ④畑地化・輸出等	☒ ⑤果樹等
☒ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☒ ⑧農業用施設	☒ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①鳥獣被害防止対策・・・今後、イノシシやその他の野生生物による被害を予防・防止するための体制を整え、被害が出た場合に対策を実施する。

②有機・減農薬・減肥料・・・農作物の付加価値を高め、農業所得の確保につなげる取組として検討する。

③スマート農業・・・担い手の減少・高齢化が見込まれる中、省力技術・労働負担軽減技術として導入を検討する。

④畑地化・輸出等・・・畑地化できる圃場がある場合には畑地化を検討する。輸出等についても販路拡大策の一つとして検討する。

⑤果樹等・・・販売単価の高い果樹や野菜などの園芸品目の導入・拡大・改植を推進する。既存の品目については生産安定につながる施設化や施設導入を検討する。

⑥燃料・資源作物等・・・遊休農地や需給調整に取り組む水田に燃料・資源作物等の導入を検討・推進する。

⑦保全・管理等・・・多面的機能支払制度、中山間地域等直接支払制度及び環境保全型農業直接支払制度等に取り組む、農地の保全・管理に努める。作物作付が困難なほ場においては、遊休化や荒廃の防止のため、植林や永年性作物の作付けを検討する。

⑧農業用施設・・・担い手の営農や利用状況などを考慮し、農業用施設・共同利用施設の計画的な更新や集約化を進める。トイレの整備を進める。

⑨耕畜連携・・・稲わらの畜産農家への提供や飼料作物の生産などに取り組む、家畜排せつ由来のたい肥を利用することで資源循環を推進する。